

コード	103050107
記入日	H23.5.30

# 事務事業途中評価表

課コード	108
課名	まちづくり推進課
課長名	田本 耕一
担当者	荒木 順一郎

作成年度	平成 23 年度
------	----------

評価対象事業名称	高齢者割引バス補助金
----------	------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 21 年度 ~ 平成 - 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	1	政策名称	にぎわいを創る地域交流の促進	款コード	7
施策コード	103	施策名称	しさを支える交通基盤づくり	項コード	1
基本事業コード	10305	基本事業名称	バス交通の充実	目コード	1
事務事業コード	1030501	事務事業名称	地区交通整備事業費	細目コード	1029
関連計画		法令・条例規則等	新上五島町路線バス「高齢者割引バス」助成事業補助金交付要綱		

## 計画 ( PLAN )

※単年度繰返事業については、全体欄を\*\*\*\*\*とする。

対象：誰、何を対象にしているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標					
(対象1)	70歳以上の高齢者	(対象指標1)	239人				
(対象2)		(対象指標2)					
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）					
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
*****	・「高齢者割引バス」購入者239人（1年有効分209人、4ヶ月有効分30人）を対象に、購入額の3分の1（1年有効分10,000円、4ヶ月有効分5,000円）を町が事業者を通じて対象者へ補助した。	*****	*****	*****	補助金交付件数+補助金申請件数	*****	
		①	補助金交付件数	12件	100%		平成22年度
		(達成率分析)	補助金対象者に対し事業者を通じて補助した。				
		②					
		(達成率分析)					
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）					
	・高齢者社会への対応策として、住みなれた地域で安心安全な暮らしの実現のため、公共交通機関の一層の移動円滑化の促進と地域活性化を図るために要する経費に対し、新上五島町路線バス「高齢者割引バス」助成事業補助金を交付する。	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
		*****	*****	*****	*****	補助金交付者数239件+補助申請者239人	*****
		①	補助金交付者数	239件	100%		平成22年度
		(達成率分析)	補助対象者の高齢者割引バス購入者に対する補助金の交付を行った。				
		②					
		(達成率分析)					

## 実施 ( DO )

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		21年度以前	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画
活動指標	①	件	19	19	7	12	12			
	②									
成果指標	①	人	439	439	200	239	239			
	②									
総事業費 C (A+B)	千円	6,460	6,460	3,520	2,940	2,940				
直接事業費 A	千円	5,060	5,060	2,820	2,240	2,240				
人件費 B	千円	1,400	1,400	700	700	700				
内訳	従事職員数	人	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1			
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円	2,241	2,241	2,241					
	県補助金	千円								
	起債	千円								
	その他	千円								
一般財源	千円	4,219	4,219	1,279	2,940	2,940				

**評価**

※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	・町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	高齢者への公共交通補助として必要である。
	・時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	高齢化社会に対応したものである。
	・事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	高齢者の外出機会の増加は、島の活性化へも繋がり、適切なものである。
有効性	・現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	「高齢者割引バス」の購入者は増加している。
	・成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	高齢者の外出意欲を促進しているので、ますます必要となってくる。
	・事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	高齢者の生活に交通費の負担が重くなる。
	・類似事業との整理統合はできませんか。	●できる ●できない	理由	割引の基準が違うため統合できない。
効率性	・直接事業費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	交付要綱による補助である。
	・人件費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	最小の人員で行っており削減はできない。
	・受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	交付要綱による補助である。

**改善**

改善策	1次評価	妥当性	現在のところ、計画を見直す必要はない。
		有効性	高齢者の外出意欲の向上のため必要である。
		効率性	利用者が減ると補助金交付額も減る。
		課題に向けた改善策	住民への利用促進に向けた広報活動をする。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり。
		有効性	高齢化社会への対応策としての事業であり、高齢者の生活支援にも繋がるものであり、利用促進に向けて広報活動に努めること。
		効率性	利用促進に向け効率的な周知を行い、適正に執行すること。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続
				事業内容を見直して事業を継続
				事業費を見直して事業を継続
	1次	2次	3次	
				類似事業と整理統合
				事業の休止
				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。